

市民の皆様への
大切なおしらせ

「家庭系ごみ指定袋制度」は 中止といたします。

資料1

ごみの出し方は、現状の袋のままでお出しただけです。

しかし、ごみを減量しなければいけないことには変わりはありません。
みんなでごみを減量するため、身近なものから取り組みましょう！

※このチラシは、「平成30年度ごみの分け方・出し方」と合わせて
保管してください。



なぜ、
ごみの減量が
必要なのか

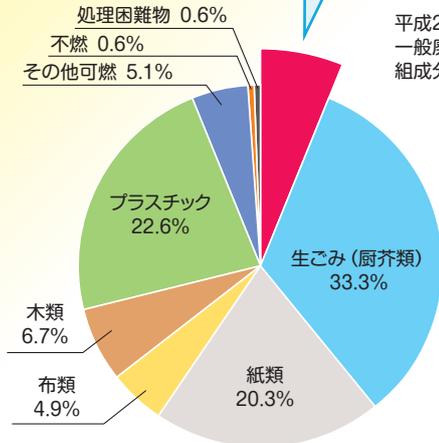
家庭から出されたごみは、ごみ
収集車両によって、中間処理施設に
運ばれ、そこで出た焼却灰などは、
埋立処分場に搬入しています。

- 車両の購入や、施設の建設費だけではなく、
- 多額の維持管理費がかかっています。
- 建設費用や維持管理費用などを軽減しながら、
- 環境負荷の低減を図る必要があります。

食品ロス(未使用食品)をなくそう



燃やせるごみのうち
約**5.9%**は食品ロス(未使用食品)が
混入しています。



市民力で
1日あたり
53gの減量を
目指そう！

食品ロスとは、食べられる状態であるにも関わらず
廃棄される食品のことです。
食品ロスをなくすることで、大幅なごみの減量化に
つながります。
これまでの調査結果では、**特に夏場は生ごみが大幅に
重くなる傾向があります**ので、注意しましょう。

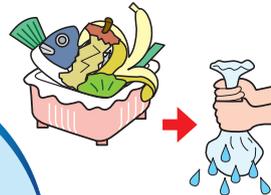
減量可能な目安

平成28年度の1人1日あたりのごみ量
733グラムからおよそ **34g減**

生ごみは水キリを！

減量可能な目安

平成28年度の1人1日あたりのごみ量
733グラムからおよそ **15g減**



生ごみは水分を多く
含んでいます。
ごみ袋に入れる前に、
水キリをすることで
軽くすることができます。

「燃やせるごみ」、「燃やせない
ごみ」は、**無色透明**または**緑色
の半透明袋**などを利用してごみ
を出してください。

- ダンボールは貴重な資源ですので、「ダンボール」の収集日に出しましょう。
- カラスのいたずらを防ぐ目的で使っている場合は、ネットなど繰り返し使えるものを利用しましょう。



資源物は大切に！

ごみのダンボール出しはやめましょう。

